

相傳曰、源空上人生日、幡降下於此樹、因名誕生木、彼宗派之輩貴重其念珠、其本有作
久米郡

〔本朝俗諺志〕興州 笹山社

伊與土佐の界山上に、笠山權現の社あり、此神は火難を遁れしめんとの誓願なり、ふかく信すれば火賊の難なし、むかし土佐の國の山下正木村と云所の土民蕨岡助之丞と云もの、年久しき家にて、豊饒の百姓也、先祖助之丞、夢中に熊野權現影向ましく、此山に跡を垂玉ひて、火難盜難の災ひを除しめんとの靈夢をかふむり、夢さめて見れば、うしろの椋の木に光明赫奕たり、則これを神木とあがめ、社を造立し、笠山權現と稱す。

〔古事記上〕其父大神者、思已死訖、出立其野、爾持其矢以奉之時、率入家而喚入八田間大室而令取其頭之氣、故爾見其頭者、吳公多在、於是其妻以牟久木實與赤土授其夫、○大國故、昨破其木實舍赤土、睡出者其大神以爲昨破吳公睡出而於心思愛而寢、